

# 事故防止に向けた安全対策 【ヨット】

## 1 競技特性

ヨット競技は、風を読み、帆を使ってヨットを操り、ブイで設定されたコースを回ってフィニッシュした順位を競う競技である。高校生が部活動において使用するヨットには、1人乗りと2人乗りがある。千葉県では、部活動や競技大会はほとんどが海上にて行われている。

自然環境の中で行われる競技であり、強風や高波、天候の突然の変化などによる事故の他、乗艇時には日差しを遮るものがない場所での活動となることから、高温時には熱中症のリスクも高くなる。また、道具を使用する競技でもあり、経年劣化や整備不良による艇や艤装品の破損や他艇との衝突による事故も多い。

## 2 想定される事事故例と予防策

### (1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・艇庫内の艇や艤装品との衝突、艇の出し入れの際の落下	打撲、裂傷、擦り傷	・艇庫内の整理整頓、周囲の確認と声掛け
・艇移動中に車両や歩行者と衝突	骨折、打撲、裂傷、擦り傷	・複数人での移動、周囲の確認と声掛け
・レスキュー艇上下架中に転倒	骨折、打撲、裂傷、擦り傷	・手順の順守、周囲の確認と声掛け
・出艇・着艇時にスロープ等で滑って転倒	骨折、打撲、裂傷、擦り傷	・複数人での実施、周囲の確認、滑りにくい履物の着用
・落ちている貝殻や金属片を踏む	裂傷	・履物の着用、周囲の確認
・風向の変化に伴うブームの急回転	打撲、裂傷	・周囲の確認、風向の把握
・乗下船時に桟橋から落下	打撲、裂傷、擦り傷	・艇の確実な固定、周囲の声掛け
・ワイヤーの劣化や金具の緩み	裂傷	・日頃の整備の徹底、定期的な目視による点検
・救命胴衣の不備や未着用	落水時に溺れる	・着用前および出艇前の確認、周囲の声掛け
・帆やロープ、艤装品の破損によるコントロール不能	漂流、転覆、沈没	・日頃の整備の徹底、定期的な目視による点検
・テトラポットへの衝突	骨折、打撲、裂傷、擦り傷	・危険個所の把握、回避方法の練習、レスキュー艇の配置と無線機の携帯、適切な曳航索の搭載

## (2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・他艇や海上浮遊物との衝突	骨折、打撲、裂傷、擦り傷、艇の転覆、浸水による沈没	・ルールの確認・順守、周囲の声掛け、技術レベルによる組み分け、レスキュー艇による巡視
・プレジャー・ボートや水上バイクとの衝突	骨折、艇の転覆、浸水による沈没	・レスキュー艇による巡視、ヨットハーバーや海上保安庁との連携
・危険な海生生物（クラゲ等）との接触	強い痛み、皮膚の炎症、アナフィラキシーショック	・レスキュー艇による巡視、適切な服装の確認
・レスキュー艇からの落水や艇内での転倒	骨折、打撲、裂傷、擦り傷	・周囲の声掛け、航行規則の順守、安全運転（特に急発進・急停止・急旋回の禁止）
・海上での想定外の動きによる負傷	脱臼、打撲、捻挫	・十分な準備運動、周囲の声掛け、レスキュー艇の常時配置
・艇整備中における道具や薬品による負傷	裂傷、擦り傷、火傷	・正しい使用方法の指導、手袋やマスク・保護メガネ等の着用

## (3) 主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・熱中症	熱失神、熱疲労、熱射病、熱けいれん、意識障害	・定期的な水分・塩分補給、休憩時間の確保、適切な服装の確認、帽子等の着用、活動前の健康観察、休息場所の確保と手当て用品の準備
・強風による艇のコントロール不能	転覆や波に流される	・気象状況の常時確認、レスキュー艇の常時配置、生徒の技術レベルの把握
・落雷	重症以上	・気象状況の常時確認、レスキュー艇の常時配置と無線機の携帯、指示伝達方法の確認
・強雨や濃霧による視界不良	衝突、沈没、漂流	・気象状況の常時確認、レスキュー艇の常時配置と無線機の携帯、指示伝達方法の確認
・気温や水温が低い時期の転覆	低体温症	・適切な服装の確認、レスキュー艇の常時配置、手当用品の準備
・津波		・注意報・警報発令時は速やかに活動中止、レスキュー艇の常時配置と無線機の携帯、指示伝達方法の確認